

柏キャンパスでは、春になるとヒバリが
 轉り、イワツバメが舞います。今年は珍客
 マヒワも現れました。初夏にはオオヨシキ
 リが「ギョギョシギョギョ」とにぎやか
 に鳴き、南側の池ではカルガモの雛が親ガ
 モについて行列を作るのも見られます。キ
 ャンパスの北側には比較的人手が入ってい
 ない緑があり、また、柏の葉公園の池など
 が近くにあることから、キジヤカモ、そし
 てそれらをねらうワシタカ類が見られ、本
 郷や駒場のキャンパスとはひと味違う鳥を
 見ることが出来ます。柏の葉公園に隣接し
 た調整池では、日本で数例しか観察例のな
 いメジロガモが数年前に飛来し、バードウ
 オッチャーが大勢押しかけたこともありま
 した。もともと、鳥の種類ということでは、
 本郷や駒場でも、実はかなりの数を見るこ
 とができます。本郷や駒場は、いわば都会
 の中の緑の孤島であり、渡りの途中の様々
 な鳥たちが羽を休める場所です。これらの
 キャンパスで意外に鳥の種類が多いのは、キ
 ャンパスの外で自然が失われていることの反
 映とも言えるかもしれません。これは、キ
 ャンパスの中心部に緑がなく、むしろ周辺
 に自然が多い柏キャンパスとは対照的です。

さて、建物の周りにあまりにも緑が少な
 い現状を憂いて、この4月から基盤系と生

Relay Essay 柏キャンパス緑化計画



園池 公毅 助教授
 先端生命科学専攻

命系の学生を中心に教職員も含めてガーデ
 ニングサークルが結成されました。園芸に
 造詣の深い基盤棟の工作室の斎藤さんに
 色々用意を手伝って頂きながら、まずは、
 プランターに花の種をまくことから出発し
 ました。ところが、色気より食い気という
 べきでしょうか、学生さんたちからぜひ野
 菜を作りたいという要望が出されました。
 野菜となるとプランターでは心許ないもの
 があります。収穫した枝豆をつまみにビー
 ルを飲みたいという村重先生の後押しもあ
 って、畑を作りたいということになっ
 たものの、場所が見つかりません。結局、
 メダカ飼育施設の周りをゲリラ的に使わせ
 て頂くことにしましたが、何しろ砂利だら
 けの場所です。スコップでは歯が立たず、
 近くの園芸店からツルハシと万能を借りて
 きて予定地を掘り返し、大きな石を除いて
 北側の林から取ってきた腐葉土を加えると
 いう作業を繰り返しました。農作業という
 よりはまるで土木作業です。結局、もう1
 つツルハシを購入し、斎藤さんが耕耘機を
 貸してくださいっておかげで、ある程度の面
 積の畑ができあがりました。おそらく作業
 に要した延べ時間は軽く100時間×人を
 超すのではないのでしょうか。現在までに、
 枝豆、カボチャ、サツマイモ、ナス、トマ
 ト、スイカ、トウモロコシ、オクラ、ソラ



マメといった野菜が植え付けられました。
 …と、書いてきた筆者は、実は何も働いて
 いません。学生さんの作業を温かく見守っ
 たということでご容赦をお願いします。今
 のところ、野菜たちはまあまあ順調に育っ
 ているようですが、さて、みんなの口に行
 き渡るだけの収穫があるかどうか見物で
 す。

最後に、ガーデニングサークルには立派
 なホームページ <http://www.it.u-tokyo.ac.jp/garden/>まで作られています。畑作りは
 一段落しましたが、興味のある方はホーム
 ページをのぞくだけでもどうぞ。